

発行：平成25年11月

芋川砂防フィールドミュージアム実行委員会
国土交通省北陸地方整備局湯沢砂防事務所

芋川砂防 フィールドミュージアム かわら版

第6号

新潟県中越地震により大規模土砂災害が発生した芋川流域での経験を将来につなぐ活動に関わる情報を発信しています。



国道291号線から見える
神沢川砂防えん堤

取り組みの概要

◆「芋川砂防フィールドミュージアム」

新潟県中越地震で河道閉塞などの大きな災害を経験した芋川流域には様々な砂防施設があります。それらを「砂防の野外博物館」として、記憶継承・地域振興・防災力向上を図ろうという取り組みが「芋川砂防フィールドミュージアム」です。

◆取り組み状況

ミュージアムのガイド活動は、地元観光ガイドの方々が地域の見所を案内する際に、砂防施設の紹介を加えることから始まりました。その後、砂防行政経験者などにも専門ガイドとして登録いただき、観光ガイドと合わせ、ニーズに応じてガイドするしくみができました。全国的に大きな災害が続く中、専門ガイドへのリクエストも入り、案内実績が伸びています。

ミュージアムの計画作成や意思決定は実行委員会が行っていますが、今年度から小千谷市、魚沼市からもメンバーに加わっていただき、芋川流域ぐるみで取り組む体制に発展しました。

地震災害を経験した人の体験談や、地すべりが多い地域独特の歴史文化を受け継いだくらしはミュージアムの大切な要素です。そこで、地域の方々が砂防施設のはたらきなどを知り、来訪者や子供たちに話ができるよう、また万一の大雨災害などから身を守るよう、実行委員会では講習会や資料作りなどを進めています。今年も砂防講習会を開催し、新しい参加者を迎えました。

今年の大きな話題として、新潟県中越地震から9年の日にやまこし復興交流館「おらたる」がオープンしたことがあります。この施設は芋川砂防フィールドミュージアムにとっても情報拠点であり、ガイド活動の基地にもなります。現地に行けない場合も、この施設を通して芋川砂防フィールドミュージアムに触れていただけるようになり、今後の活用も期待されています。

◆第1回作業部会

8月29日、山古志支所大会議室において平成25年度第1回作業部会を開催しました。

会議では今年度のスケジュール、砂防講習会、やまこし復興交流館の展示、看板設置、震災10年に向けての取組み等について意見を出し合い、実行委員会に提出する内容をまとめました。



第1回作業部会開催状況

今年度の取り組みから

◆実行委員会

10月3日(木)、長岡市山古志体育館において、「平成25年度芋川砂防フィールドミュージアム実行委員会」を開催しました。

委員会では、第1回作業部会の議論を受け、今年度の取り組み計画を推進する議論が行われ、震災10年に向けては現地看板や交流館のコンテンツなどの整備を進めるとともに、関係機関がスクラムを組んで、今までにない芋川砂防フィールドミュージアム独自のソフト事業にも取り組む方向で意思統一が行われました。



実行委員会開催状況

◆砂防ガイド講習会

10月28日、砂防ガイド講習会を開催しました。芋川流域にお住まいの皆様他、新潟市や県外から大学生、行政の方などにも参加いただき、関係者含め50名のイベントとなりました。

○室内講習

芋川流域のガイドをされている湯沢砂防スペシャルエンジニアの本臼さん、永井さんにゲスト出演いただきました。

前半は空撮映像を使って中越地震による壊滅的な土砂災害を振り返る内容、後半は砂防工事箇所の当時と現在を写真で比較しながら砂防が果たしてきた成果や砂防施設のはたらきを確認する内容としました。講習では

○×クイズも取り入れ、山古志観光ガイドの星野さん、小川さんからアドバイスなどをいただき、参加者の皆様から感想やご意見も伺いました。

○現地講習

やまこし復興交流館前を2台のバスで出発し、上流から下流までの芋川本川をたどり、国道291号沿いに梶金を経由するルートで実施しました。

今年はこれから説明看板の設置を予定している、寺野・東竹沢・竜光・梶金(下ノ沢)を中心に災害当時の様子と砂防対策の説明、ガイドのポイントなどを専門ガイドのお二人にも協力いただいて解説し、参加者の質問にお答えしました。

晴天に恵まれ、ご参加の皆様には熱心に受講いただくことができました。



今回は、寺野地区では地すべり跡地を間近に見ながら説明を行いました。



空撮映像による中越地震振り返り(講師:湯沢砂防スペシャルエンジニア本臼茂さん)



○×クイズを交えた室内でのガイド講習のようす



見学ポイントには説明看板の設置が予定されています。それをガイド活動に使っていただけるよう、参加者に概要を紹介しました。

砂防ガイド講習会アンケート結果

参加者のうち、18名の方がアンケートにご協力下さいました。ありがとうございました。

いただいたご意見等は今後の活動の参考と致します。

●室内講習で興味深かった内容は？

- 冒頭の航空撮影で説明いただいた当時の状況、復旧、復興の砂防技術に感心した！！（魚沼市・自主防災会）
- 流域のピフォーアフターで様子の差をみる事ができたこと（長岡市・学生）
- 砂防えん堤が土砂を止めるため以外の働きがあることなど（新潟市・行政）

●現地講習で興味深かった場所や内容は？

- 山の中の川の管理の大切さを勉強しました。住民の安全を守っているのですね。（長岡市）
- 竜光地区の遊砂地とその働きについて（長岡市・学生2名&その他1名）

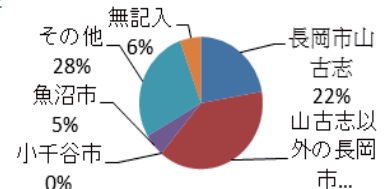
●防災上重要と思ったこと・家族に話そうと思ったことは？

- 地すべりについてはあまり考えたことがなかったので視野に入れたと思いました。（長岡市・学生）
- 人間が生活をしている陰でこんなにも大変な工事を考え、実行されていたことです。町の中に住む私としても考えさせられました。（長岡市）

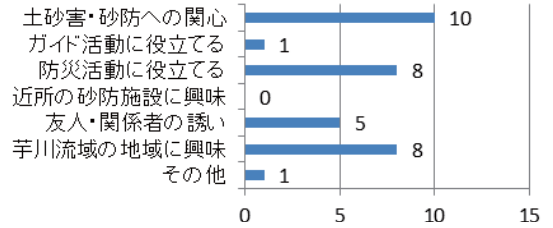
●参加後の意識の変化や感想は？

- 一下流住民として、上流の事はあまり良く知りませんでした。参加して本当に良かったと思いました。又、砂防の技術力に感心しました。（魚沼市・自主防災会）
- とても面白かったです。砂防に興味を持って、勉強になりました。（長岡市・学生）

あなたの住所

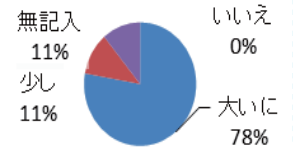


応募の動機

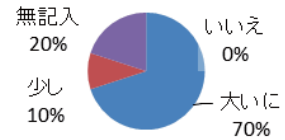


講習は役立ったか？

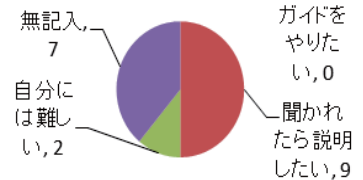
室内講習



現地講習



参加後の意識変化



◆講習会を終えて

今日は、住むための大地を復活させた縁の下の力持ちとも言える砂防の営みと、べと（大地）の上に戻ってきて生活を再生してきた人たちの暮らしぶりとが一緒になることによって、砂防フィールドミュージアムとして多くの事を伝えられる、という思いを新たにしました。

この砂防講習会のような活動がもっと多くの方々に参加をしてもらえるようになれば良いなと思います。

下流竜光までの流域で暮らす方々、砂防関係者、行政を含め、これから連携をはかるためにも、この講習会は良い機会になりました。

ご参加の皆様、講師の皆様にお礼申し上げます。



芋川砂防フィールドミュージアム
実行委員長 澤田 雅浩



参加された皆様（東竹沢砂防えん堤前）

事務局（湯沢砂防事務所）から

山古志小中学校の先生方に砂防の講習会を行いました

夏休み中の8月22日、湯沢砂防スペシャルエンジニアのみなさんと共催により、防災教育に携わる先生方を対象とした砂防講習会を行いました。

山古志小中学校へは砂防副読本を提供しています。授業に活用いただけるよう、山古志地域の地質と土砂災害、砂防について主要部分の説明を行い、その後はバスで現地の砂防施設をまわりました。



上：現地では砂防施設等の説明、先生方の質問にお応えしました。

左：室内では、砂防副読本を使った説明を行いました。

「つなごう山古志の心展」に出展しました

山古志住民会議が主催する「つなごう山古志の心」展に、昨年に続きパネルや3D映像「新潟県中越地震 大地と人のドキュメント」などを出展しました。

出展期間：
平成25年10月～11月



上：パネル展示
下：3Dシアター

やまこし復興交流館へのデータ提供や、オープニングでの情報発信を行いました



平成25年10月23日（水）に、新潟県中越地震から9年を迎え、やまこし復興交流館「おらたる」がオープンしました。湯沢砂防事務所からは、館の展示制作のために砂防に関する資料や情報を提供しています。

オープニングに当たっては、「芋川砂防フィールドミュージアム」の取組みを紹介するためパネルを作成し、現地案内ポスターとともに掲示して、来賓の方々や一般のお客様にご覧頂きました。



「芋川砂防フィールドミュージアム」パネルの展示（1F入口付近）



芋川砂防フィールドミュージアムの情報を載せたタッチモニター



河道閉塞対策について解説した2Fの展示物（資料を提供）

◆ご不明な点がございましたらお気軽にお問合せください◆



★事務局は湯沢砂防事務所が担当しています。
国土交通省 北陸地方整備局 湯沢砂防事務所
〒949-6102 南魚沼郡湯沢町大字神立23
流域対策課 Tel：025-784-2926